「セルビア・モンテネグロは応援しない」

スペシャルインタビュー

BOBAN

Zvonimir ズヴォニミール・ボバン

［元ユーゴスラビア代表・元クロアチア代表］

～旧ユーゴから独立したクロアチアの英雄～

クロアチアの英雄として世界的なプレーヤーに上り詰めたボバン。かつて旧ユーゴのメンバーとしてワールドユースを制し、黄金軍団の主役の座も用意されていた男が、当時を振り返ってくれた。

文●ウラディミール・ノワク
Text by Vladimir Novak

写真●ラディシャ・ムラデノヴィッチ
Photo by Radisa Mladenovic

翻訳●熊井ひろ美
Translation by Hiromi Kumai

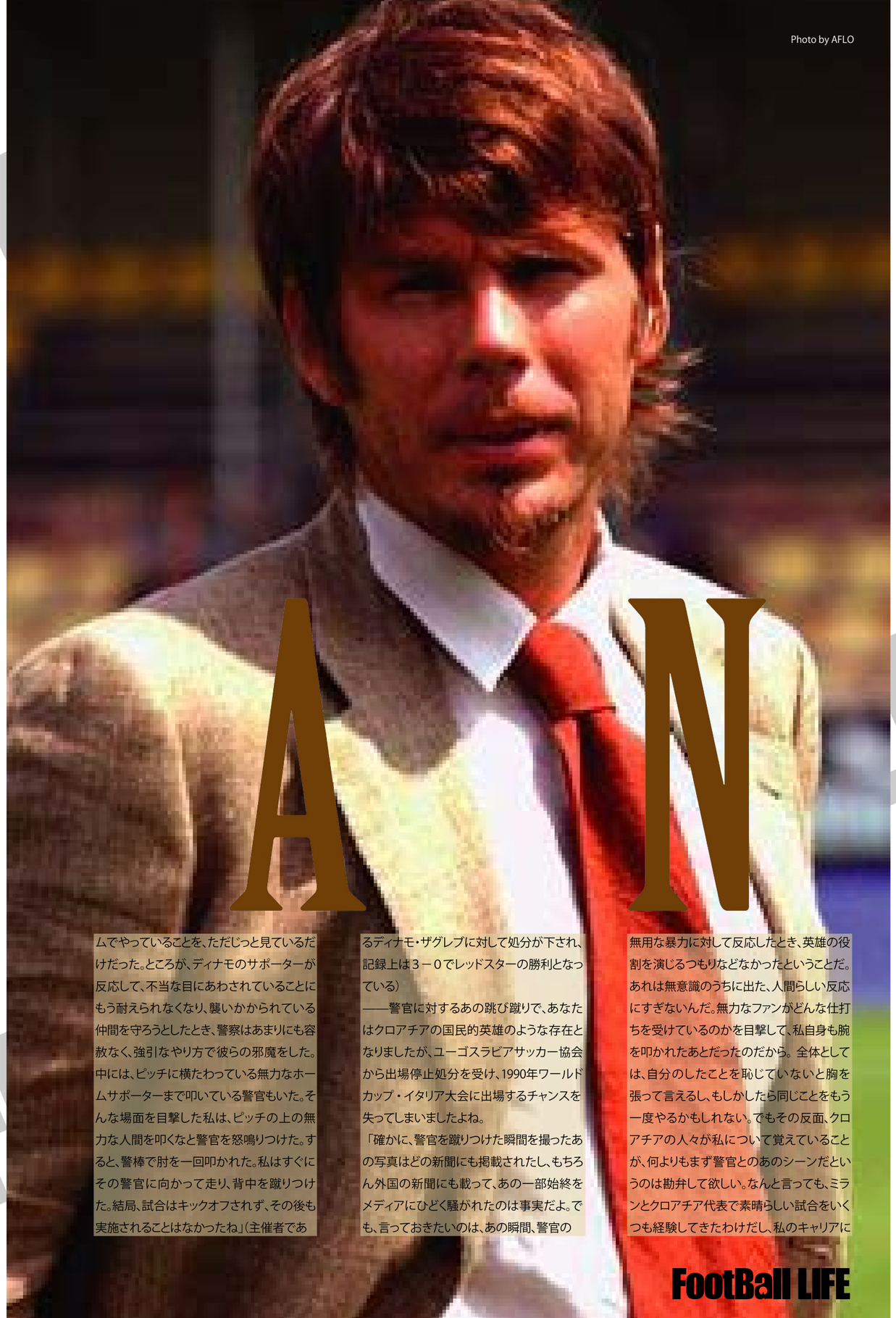

Photo by AFLO

あの瞬間の行動を騒がれたけど あれは、人間らしい行動だと思う

ズヴォニミール・ボバン、37歳。ミランのスター選手だった元クロアチア代表の彼は、キャリアの最初の頃に旧ユーゴスラビア代表として７試合に出場している。このかつてのワールドクラスのミッドフィルダーに、クロアチアが旧ユーゴスラビアから分離独立した頃の思い出を語ってもらった。

それは、ユーゴスラビア代表チームが消滅した時期でもある。そのチームで、ボバンは1987年ワールドユース選手権優勝という、彼のキャリアにおいて有数の快挙を成し遂げている。

現在のボバンはザグレブに在住。ザグレブ大学哲学部で歴史学を専攻して卒業し、最近になってメディアビジネスにおける高い地位に就き、大手スポーツ日刊紙スポルツケ・ノヴォスティの顔として活躍中だ。

そしてこのインタビューで、切れ者で自信に満ちたボバンは、過ぎ去りし日の黄金軍団、旧ユーゴスラビア代表時代とそのサッカーについて、静かに語ってくれた。

――旧ユーゴスラビアの内戦は、実際の戦闘の開始より１年以上も前に事実上始まっていたとも言われています。つまり、1990年５月13日にザグレブのマクシミール・スタジアムで、ディナモ・ザグレブ対レッドスター・ベオグラードのリーグ戦の試合前に始まったと。あの日の午後に何が起きたのか、説明していただけますか。

「あの日、我々ディナモのホームでレッドスター・ベオグラードとの試合が始まる前に、信じられない出来事が起こったんだ。キックオフ前に、アウェイ側のサポーターがスタンドと座席を破壊し始めて、南側スタンドのディナモサポーターに殴りかかった。当時の警察がとった対応は、まさに最悪だった。レッドスターのフーリガンの野蛮な行為を妨げてやめさせようとするどころか、何もしなかったんだ。フーリガンの連中が我々のスタジアムでやっていることを、ただじっと見ているだけだった。ところが、ディナモのサポーターが反応して、不当な目にあわされていることにもう耐えられなくなり、襲いかかられている仲間を守ろうとしたとき、警察はあまりにも容赦なく、強引なやり方で彼らの邪魔をした。中には、ピッチに横たわっている無力なホームサポーターまで叩いている警官もいた。そんな場面を目撃した私は、ピッチの上の無力な人間を叩くなと警官を怒鳴りつけた。すると、警棒で肘を一回叩かれた。私はすぐにその警官に向かって走り、背中を蹴りつけた。結局、試合はキックオフされず、その後も実施されることはなかったね」（主催者であるディナモ・ザグレブに対して処分が下され、記録上は３－０でレッドスターの勝利となっている）

――警官に対するあの跳び蹴りで、あなたはクロアチアの国民的英雄のような存在となりましたが、ユーゴスラビアサッカー協会から出場停止処分を受け、1990年ワールドカップ・イタリア大会に出場するチャンスを失ってしまいましたよね。

「確かに、警官を蹴りつけた瞬間を撮ったあの写真はどの新聞にも掲載されたし、もちろん外国の新聞にも載って、あの一部始終をメディアにひどく騒がれたのは事実だよ。でも、言っておきたいのは、あの瞬間、警官の無用な暴力に対して反応したとき、英雄の役割を演じるつもりなどなかったということだ。あれは無意識のうちに出た、人間らしい反応にすぎないんだ。無力なファンがどんな仕打ちを受けているのかを目撃して、私自身も腕を叩かれたあとだったのだから。全体としては、自分のしたことを恥じていないと胸を張って言えるし、もしかしたら同じことをもう一度やるかもしれない。でもその反面、クロアチアの人々が私について覚えていることが、何よりもまず警官とのあのシーンだというのは勘弁して欲しい。なんと言っても、ミランとクロアチア代表で素晴らしい試合をいくつも経験してきたわけだし、私のキャリアに